

## 令和4年度第1回野洲市社会教育委員会議（概要報告）

会議日時	令和4年6月3日（金曜日） 午前10時00分～12時00分
会議場所	人権センター 交流研修室
出席者	社会教育委員 出席：高木委員長、中出委員、光永委員、駒井委員、浅野委員、小澤委員 欠席：水島副委員長、吉田委員、白石委員 事務局：西村教育長、馬野教育部長、北脇教育部次長、中川文化ホール館長、 （生涯学習スポーツ課）井狩課長、菱沼参事、岡山
傍聴人	なし

### ●議事

#### （1）令和3年度第4回社会教育委員会議 意見聴取結果について

○書面開催となった令和3年第4回社会教育委員会議について、委員から寄せられた意見について関係課から回答・コメントがあったものについて事務局より説明。

#### 学校図書館・子どもの読書活動推進計画について

- 委員 学校教育課のコメントで、「学校司書の配置については財政的な問題もあり難しい部分がある」とある。基準に沿った図書の廃棄など、司書でないとできないこともある。篠原小では司書資格を持っている方にボランティアとして図書整理に取り組んでいただいている。子どもたちの為にきちんとした蔵書がそろっている図書館にしてあげたいし、そのために（篠原小に限らず）できることがあればおっしゃってくださいということも話題に出していたし、またそういった調査も必要かと思う。
- 委員 中主中学校では国語科と連携しながら読書活動に力を入れている。野洲図書館とも連携し、移動図書館に来ていただいて貸し出しも継続してもらっている。地域の司書資格保持者とのつながりも持っていくのが大事かなと思う。
- 委員 小学校と中学校では図書室の在りように対して、若干の認識の差異がある。廃棄であったり管理するうえで子どもたちにより良い読書環境を提供していくという意味において、専任の図書館司書を出していければと思う。学校の場合は司書教諭免許を持っている者が一応、役職的に当たっている。ただ、ほかの業務がある中で学校図書館の管理ができるかと言われたら難しい。  
本好きな子と嫌いな子、2極化が課題であるが、小さいころから「読書ができる環境」を作っておいてあげることが大事だと思う。
- 委員長 第3次子どもの読書活動推進計画について、作ったはいいがこれからどうしていくのが部署任せになっている。学校図書館はまた、不登校の子ども達が寄ってくる場所でもある。図書館自体の価値観も今変わってきている。  
子どもの声・願いを聞きながらやっついていかないといけない。

- 委員 今、タブレットが普及している社会であっても、ネットで調べるより図書館で紙媒体で調べる方が記憶に残るというデータも出ている。子ども達が忙しい中でも、本を読む・新聞を読むということに向かえるような姿勢を作ってあげないといけないかなと思う。国語数学社会どんな教科でも、読解力が必要であり、(読書は)全部そこにつながってくる。
- 委員 そもそも学校教育の中でこの図書の問題は、優先順位がどの程度のものなのか疑問である。本好きな子は読むし、読まない子は読まない。

### 人権教育について

- 委員長 人権問題について「研修して終わり」ではなく研修会を受ける以前に話し合い、課題を焦点化し、その課題を学びに来る。本来そうあるべきものが、いまの人権教育では逆転している。  
 次回はぜひ、次世代育成に焦点をあてた報告が欲しい。各組織、行政組織を責める意味ではなく、発想の転換をお願いしたい。

### (2) 野洲市文化ホール3施設の集約化の検討について

- 中川館長より、3施設集約化の検討について説明。社会教育に関わる委員の意見を聴取。  
 決定事項ではなく所管部局として、3つの施設を1つに集約することについて検討した案である旨を説明。
- 委員 文化ホールは生涯学習の施設であると同時に、野洲市の中では教育機関でもある、という位置づけと認識している。
- 委員 3施設を1つにとあるが、30分圏内に守山(市民ホール)も栗東のさきらもある。守山は1300人収容、野洲文化ホールは1000人で、その規模なら守山で借りればよいと思う。
- 委員 行財政改革の面から言えば、もともと旧野洲町、中主町にそれぞれホールがあっただけであり、集約化は絶対必要だと思う。評価する見解の部分について、鑑賞の機会とか発表の場とかはあるのに、「利便性」がない。
- 委員 利用者との関係性もちゃんとしてほしい。1000名定員で開催していたのを500名定員でどのように運営していくのかなどを利用団体に考えてもらわないといけない。
- 委員 「利便性」が話題になっているが、旧中主町の住民や駅前以外の野洲市民には関係ないと思う。
- 委員長 文化ホールに限った話でなく、老朽化が進む施設全体に関わってくることである。その場しのぎの財政の使い方ではいけないと思う。これまでは全部行政が指示して、地域の人たちが動いていたかもしれないが、市民の主体的な活動スタイルが広がっていかないと社会教育にはならない。都心部では全部そういう方向で動いている。その点を踏まえて、市全体の方向性を決めていかないといけない。

### (3) これからの社会教育委員のありかたについて

○今期の委員メンバーで集まるのは今回の会議が最終となる。委員長提案で、各委員のこれまでの振り返りやこれからの展望について意見・感想をいただいた。

●委員 自分の実践の中で、学校や地域の方々と情報交換した課題をここに持ち寄って、また逆にここで得た情報を自分の地域に持ち帰って自分のところで何ができるかを考える、そんな機会があったらいいなと思う。

●委員 地域学校協働活動は、社会教育が地域に根付いていることが必要だと思っている。子どもを支えるための団体であったり、大人の活動、成人の教育、そのあたりをどうしていくのかっていう基盤を社会教育の中で整えてしっかり欲しい。初めて会議に参加させていただいたが、もう少し焦点を合わせた方が話をしやすい印象を受けた。

●委員 委員長の言う通り、いろんな団体が崩れてきている。我々の字の老人クラブもそのうち無くなっていくという流れの中で、今までのやり方と違う方法を考えていかないといけない。

### その他連絡事項

- ・令和4年度滋賀県社会教育委員連絡協議会研修会について  
米原会場において研修会があることを案内。